

□ 主な内容

【公共交通活性化再生法が施行されました！】

一部改正された公共交通活性化再生法が 11 月 20 日に施行され、同法の施行に伴い必要な規定の整備をするため、施行令等の一部を改正しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000070.html

【中国 EST 創発セミナー(岡山) 及び 東北 EST 創発セミナー(仙台)参加者募集中！】

平成 27 年 1 月 16 日(金)に、岡山にて環境負荷の小さい交通を考えるセミナーを開催します。皆様のご参加をお待ちします。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu35.html>

また、平成 27 年 1 月 26 日(月)に、仙台にて地下鉄東西線を事例にあげた環境負荷の小さい交通を考えるセミナーを開催します。皆様のご参加をお待ちします。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu37.html>

□ 目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 100 回)

●「EST の展開とこれからの方向」

【環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会委員長 /
東京大学名誉教授 太田 勝敏】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 100 回)

●「モビリティセンター社会実験」

【松山市都市整備部総合交通課 課長 石井 朋紀】

3. ニュース／トピック

●「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律の施行期日を定める政令」及び「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律施行令及び道路運送車両法施行令の一部を改正する政令」について【国土交通省】

●燃料電池自動車の初めての型式指定について【国土交通省】

●平成 26 年度低公害車普及促進対策費補助金(環境対応車の導入事業)2 次募集について【国土交通省】

●「電気自動車による地域交通グリーン化事業」の公募について【国土交通省】

●気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第 5 次評価報告書統合報告書の公表について【文部科学省、経済産業省、気象庁、環境省】

- 11月「エコドライブ推進月間」について【警察庁、経済産業省、国土交通省、環境省】
- 第8回アジアEST地域フォーラムの開催について【環境省、UNCRD】
- 公共交通機関「くるめエコドライブ宣言」開始について【久留米市】
- 「自動車交通研究 2014」の発刊について【公益社団法人日本交通政策研究会】
- セダンタイプの新型燃料電池自動車「MIRAI」を発売【トヨタ自動車株式会社】
- 愛知県内で、普通充電インフラの普及に向けた実証実験を実施【トヨタ自動車株式会社】
- 電気自動車の走行可能距離を従来の2倍にする高エネルギー密度型リチウムイオン電池の要素技術を開発【株式会社日立製作所】
- EUのほぼすべての自動車メーカー、CO2排出量目標を計画より早く達成【欧州環境庁】

4. イベント情報

- 中国 EST 創発セミナー～環境負荷の小さい交通への転換を目指して～【2015/1/16】
- 東北 EST 創発セミナー～地下鉄東西線開業！環境負荷の小さい交通への転換を目指して～【2015/1/26】
- まちづくりと地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2014 IN 四国～未来の四国のための「コンパクト+ネットワーク」～【2014/11/26】
- 地域公共交通シンポジウム in 札幌～まちづくりと交通の明日に向けて～【2014/11/27】
- 第5回地域バス交通活性化セミナー「みんなで支えるバス～事業者、自治体、市民それぞれの立場で考える～」【2014/11/28】
- 第12回 ITS シンポジウム 2014【2014/12/4-5】
- 省エネ促進フォーラム 2014in 福岡【2014/12/11】
- エコプロダクツ 2014(第16回)【2014/12/11-13】
- 公共交通シンポジウム in 中部～持続可能なまちづくりと地域公共交通ネットワーク形成～【2014/12/3】
- シンポジウム「2050の中部を創る」～第3次まんなかビジョンを受けて～【2014/12/9】
- 「リニア中央新幹線を活かした名古屋圏地域づくりフォーラム」【2015/1/22】

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 100 回)

●「EST の展開とこれからの方向」

【環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会委員長／
東京大学名誉教授 太田 勝敏】

この EST メールマガジンが 2006 年 8 月に創刊されてから 100 号ということで、改めてその後の展開を振り返り、これからの取り組みについて考えてみます。

初めて EST や“環境的に持続可能な交通”と聞いて戸惑った人が多かったと思います。今でももっと適切な、こなれた言い方はないかと考えますが思いあたりません。EST は自動車交通への過度の依存に伴う諸問題の中で、とりわけ有限な資源の多消費、非効率的な使用がもたらす地球温暖化問題をはじめとする長期的かつグローバルな環境問題への対応をコアとした欧州生まれの概念であります。その重要性は容易に理解されましたが、痛みを伴う具体的な対応はなかなか進んでいないのが現状です。

50 年前、英国のブキャナン・レポートが指摘した「両刃の剣」、「人類最愛の怪物」としてのクルマを賢く飼いならすことは残念ながら今でもできていません。近年の自動車交通に関連した技術革新、EV/PHV、そして燃料電池車、さらに ICT との融合で急速に進化し始めた自動運転機能をもつ次世代 EV(考えるクルマ、オート・サピエンス車)は EST の進展に大きく貢献すると期待されます。しかし、現状ではコスト、性能、関連インフラ投資など課題も多く、それらの普及には時間がかかるでしょう。

近年頻発する世界各地での異常気象現象、そして中国などで進む爆発的なモータリゼーションと大都市部で深刻化する大気汚染問題などもある中で、EST への取り組みは人類共通の課題であり、環境・エネルギー問題の一環として世界規模での対応が必要といえます。自動車生産での先進国として、さらなる技術開発とともにその社会的に賢い使い方について、先導するのがわが国の EST の役割といえます。

今後はことさら EST という必要もない様なライフスタイル、ビジネススタイルでの定着が求められており、そのためには交通サービスの供給関連者としての自動車メーカー、運輸・交通事業者など、需要者としての一般事業者や市民、そして市場の仕組みを支える政府といった様々な関係者全体が主体的に関与した協働による取り組みが求められています。私は徒歩・自転車を含め、人・物の移動での適切なマルチモーダルサービス体系を確立していく上では技術開発に加えてそれらを適切に活用するための社会的費用を反映した価格形成が特に重要であると考えます。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 100 回)

●「モビリティセンター社会実験」

【松山市都市整備部総合交通課 課長 石井 朋紀】

本市では、今後進展する、少子高齢化社会や財政的制約などの社会経済情勢に対応したコンパクトなまちづくりを目指すこととしています。

コンパクトなまちを形成するためには、居住地や都市機能の拠点への集約や歩行者、自転車、公共交通施策を一体的に実施する必要がありますが、その中でも公共交通のサービス水準は特に大切な要素となることから、オムニバスタウンや交通結節点整備等公共交通のサービス水準の向上策を実施してきましたが、さらなる自動車からの転換を図るため、駅等で市民がシェアサイクル、電車、バス、小型モビリティ、EV カーシェアリングを目的等によって自由に選択できるモビリティセンターの社会実験を平成 24 年度に道後地区で実施しました。

こうした様々な移動手段を提供することは、より移動の利便性が向上し、将来的に公共交通の利用促進につながります。しかしながら、本市の公共交通分担率は約 4 パーセントと低く、即座には効果が得られにくいと考え、観光客にも利用していただけるように、道後地区で 33 日間社会実験を行いました。

料金は、EV200 円/15 分、シェアサイクル 150 円/30 分、60 分以上は一律 300 円、小型モビリティ 100 円/15 分と公共交通と競合しない値段設定とし、貸出の認証、支払は地域の交通 IC カードである伊予鉄道の IC カードを使用しました。

総利用者数は 219 人、市民の利用は 81 人で、残りは観光客の利用でした。利用者の意見としては、モビリティセンターが主要結節点にいくつかあり、相互で貸出し、返却が可能である方が利用しやすい、小型モビリティを二人乗りにすれば利用するなどの意見がありました。また、モビリティセンターの利用者の 37 パーセントが公共交通をその前後に利用していました。

こうしたことから、モビリティセンターの設置は公共交通の利用促進につながると認識しており、シェアサイクルを含め、結節点の規模、地域特性に応じた配置検討をおこなっているところです。

3. ニュース／トピック

●「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律の施行期日を決める政令」及び「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律施行令及び道路運送車両法施行令の一部を改正する政令」について【国土交通省】

平成 26 年 5 月 21 日に公布された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律」について、同法の公布の日から 6 月を超えない範囲内において政令で定めることとされている施行期日を定めるとともに、同法の施行に伴い必要な規定の整備をするため、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律施行令(平成 19 年政令第 297 号)等の一部を改正しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000070.html

●燃料電池自動車の初めての型式指定について【国土交通省】

国土交通省では、2005 年 3 月、世界に先駆けて燃料電池自動車など圧縮水素を燃料とする自動車の安全基準を策定するなど、燃料電池自動車の普及のため環境整備を進めてきました。また、国際的にも日本の基準をベースとした燃料電池自動車の国際基準の策定を目指し、昨年 6 月に日本の基準を相当程度盛り込んだ燃料電池自動車の世界統一基準(GTR13)が策定されました。今般、圧縮水素ガスを燃料とする燃料電池自動車について、GTR13 策定後、トヨタ自動車株式会社が初めて道路運送車両法の第 75 条に基づく型式指定を取得しました。これによって、型式指定された燃料電池自動車の大量生産が可能となり、一般ユーザーへの普及が期待されます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha08_hh_001771.html

●平成 26 年度低公害車普及促進対策費補助金(環境対応車の導入事業)2 次募集について【国土交通省】

国土交通省では、大気汚染問題や地球温暖化の改善等を図るため、次世代自動車等の普及に貢献してきました。平成 26 年度についても、低公害車普及促進対策費補助金(環境対応車の導入事業)を交付しており、この度、交付予定枠の 2 次募集を行います。

http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk1_000003.html

●「電気自動車による地域交通グリーン化事業」の公募について【国土交通省】

国土交通省では、環境性能に特に優れた電気自動車の普及を図るため、他の地域や事業者による電気自動車の集中的導入を誘発・促進するような地域・事業者間連携等による先駆的な取り組みを行う自動車運送事業者等に対して、バス、タクシー及びトラックの電気自動車の導入を重点的に支援するため、「電気自動車による地域交通グリーン化事業」を実施することとし、この度、本事業の公募を開始しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000135.html

●気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書統合報告書の公表について【文部科学省、経済産業省、気象庁、環境省】

文部科学省、経済産業省、気象庁、環境省は、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第40回総会(平成26年10月27日～31日、於デンマーク・コペンハーゲン)において、IPCC第5次評価報告書統合報告書の政策決定者向け要約(SPM)が承認・公表されるとともに、統合報告書本体が採択されたことを発表しました。

わが国は、第5次評価報告書の取りまとめにあたり、省庁連携によるIPCC国内連絡会を組織し活動支援を行ってきた。また、わが国の多くの研究者の論文が引用されるとともに、報告書の原稿執筆や最終取りまとめにおいて積極的な貢献を行ってきました。

http://www.jma.go.jp/jma/press/1411/02a/ipcc_ar5_syr.pdf

●11月「エコドライブ推進月間」について【警察庁、経済産業省、国土交通省、環境省】

エコドライブ普及連絡会では、エコドライブの普及推進を図るため、行楽シーズンであり自動車に乗る機会が多くなる11月を「エコドライブ推進月間」とし、シンポジウムの開催や全国各地でのイベント等を連携して推進し、積極的な広報を行うこととしています。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000101.html

●第8回アジアEST地域フォーラムの開催について【環境省、UNCRD】

環境省は、国際連合地域開発センター(UNCRD)、スリランカ民主社会主義共和国環境・再生エネルギー省、運輸省、クリーン・エア・アジアとともに、平成26年11月19～21日に、アジアEST地域フォーラム第8回会合をスリランカ民主社会主義共和国・コロンボにて開催しました。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=18866>

<http://www.baq2014est.org/index.html>

●公共交通機関「くるめエコドライブ宣言」開始について【久留米市】

久留米市では、市内でのCO2削減効果が期待できる「エコドライブ」の普及・啓発を図ることを目的として、公共交通機関(路線バス・タクシー事業者様)と連携しエコドライブ・マグネットを張って、エコドライブを実践していく取り組みを始めました。

<http://www.city.kurume.fukuoka.jp/1500soshiki/9074kansei/3010oshirase/2014-1031-2000-456.html>

●「自動車交通研究2014」の発刊について【公益社団法人日本交通政策研究会】

公益財団法人日本交通政策研究会では、「自動車交通研究2014」を発刊しました。自動車交通研究は、政策と研究の動向に関する主要項目について基本的データと最新情報が適宜選定された統計資料です。

<http://www.nikkoken.or.jp/perspective.html>

●セダンタイプの新型燃料電池自動車「MIRAI」を発売【トヨタ自動車株式会社】

トヨタ自動車株式会社では、セダンタイプの新型燃料電池自動車（FCV）「MIRAI（ミライ）」を開発し、12月15日より発売します。MIRAIは、将来の有力なエネルギーである水素を空気中の酸素と化学反応させて自らが発電して走り、優れた環境性能はもとより、利便性や走る楽しさもあわせ持つ、モビリティの新しい幕開けを告げるクルマです。

<http://newsroom.toyota.co.jp/jp/detail/mail/4197769>

●愛知県内で、普通充電インフラの普及に向けた実証実験を実施【トヨタ自動車株式会社】

トヨタ自動車株式会社では、今回愛知県の4自治体（刈谷市・豊田市・豊橋市・長久手市）及び2企業（株式会社豊田自動織機・ユニー株式会社）と共同で、2012年度、2013年度に引き続き同県内で2014年11月1日から2015年3月15日までの間、プラグインハイブリッド車（PHV）や電気自動車（EV）などの電気利用車両用の普通充電器の利用に関する実証実験を行います。

<http://newsroom.toyota.co.jp/jp/detail/4157385/>

●電気自動車の走行可能距離を従来の2倍にする高エネルギー密度型リチウムイオン電池の要素技術を開発【株式会社日立製作所】

株式会社日立製作所では、電気自動車の走行可能距離を従来の2倍にする電池技術を開発しました。具体的には、電極の厚さを従来の2倍にし、充放電できるリチウムイオン量を増加させることでエネルギーを高密度化するとともに、新たに開発した3次元電極構造可視化の技術を用いて、リチウムイオンの移動の特性を明らかにし、リチウムイオンの移動を促進する電極内の活物質の分布を最適化することで高出力化を実現しました。

<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2014/11/1114.html>

●EUのほぼすべての自動車メーカー、CO₂排出量目標を計画より早く達成【欧州環境庁】

欧州環境庁では、報告書「2013年の乗用車とバンのCO₂排出量モニタリング」を公表し、2013年にはほぼすべての小型車（乗用車・バン）メーカーがEUのCO₂排出上限値を計画より早く達成したことを公表しました。報告書によると、域内で販売された乗用車の1キロメートル走行時のCO₂排出量の平均は126.7グラムで、2015年までに達成することになっているEU目標130グラムをすでに達成しました。

<http://www.eea.europa.eu/highlights/car-and-van-makers-continue>

4. イベント情報

●中国 EST 創発セミナー～環境負荷の小さい交通への転換を目指して～

日時:2015年1月16日(金)13:30～16:45

場所:岡山コンベンションセンター 展示ホール

主催:国土交通省中国運輸局、EST 普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu35.html>

●東北 EST 創発セミナー～地下鉄東西線開業！環境負荷の小さい交通への転換を目指して～

日時:2015年1月26日(月)13:30～16:50

場所:仙台サンプラザ 宮城野

主催:国土交通省東北運輸局、EST 普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu37.html>

●第5回地域バス交通活性化セミナー「みんなで支えるバス～事業者、自治体、市民それぞれの立場で考える～」

日時:2014年11月28日(金)13:40～16:40

場所:KKR 山口あさくら 「扇翠の間」

主催:公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、国土交通省中国運輸局、みんなが利用したくなる生活交通推進会議

http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/5th_seminar.html

●まちづくりと地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2014 IN 四国～未来の四国のための「コンパクト+ネットワーク」～

日時:2014年11月26日(水)13:00～17:00

場所:香川県社会福祉総合センター 1階コミュニティホール

主催:国土交通省四国地方整備局、四国運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/newsrelease/2014/2014-1112-1447-4.html>

●地域公共交通シンポジウム in 札幌～まちづくりと交通の明日に向けて～

日時:2014年11月27日(木)13:30～17:30

場所:ACU(アキュ)1614 大研修室

主催: 国土交通省北海道運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/press/presspdf/2611/261105sin.pdf>

● 第 12 回 ITS シンポジウム 2014

日時: 2014 年 12 月 4 日(木)、5 日(金)

場所: 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

主催: 特定非営利活動法人 ITS Japan

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/its_symposium12/

● 省エネ促進フォーラム 2014in 福岡

日時: 2014 年 12 月 11 日(木) 13:30~16:30

場所: 福岡国際会議場 4 階会議室

主催: 国土交通省九州運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2014-1105-kankyo.pdf>

● エコプロダクツ 2014(第 16 回)

日時: 2014 年 12 月 11 日(木)~13 日(土)

場所: 東京ビッグサイト 東ホール

主催: 一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/eco2013/contact/2014.html>

● 公共交通シンポジウム in 中部～持続可能なまちづくりと地域公共交通ネットワーク形成～

日時: 2014 年 12 月 3 日(水) 13:30~17:30

場所: ミッドランドホール オフィスタワー5 階

主催: 国土交通省中部運輸局、中部地方整備局

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kisya014/kikaku20141106.pdf>

● シンポジウム「2050 の中部を創る」～第 3 次まんなかビジョンを受けて～

日時: 2014 年 12 月 9 日(火) 15:00~17:00

場所: ウィルあいち ウィルホール

主催: 国土交通省中部運輸局、中部地方整備局

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kisya014/kikaku20141107.pdf>

● 省エネ促進フォーラム 2014 in 福岡～人と地球にやさしい運輸を目指して～

日時: 2014 年 12 月 11 日(木) 13:30~16:30

場所: 福岡国際会議場 4 階会議室

主催：国土交通省九州運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2014-1105-kankyō.pdf>

●「リニア中央新幹線を活かした名古屋圏地域づくりフォーラム」

日時：2015年1月22日(木)13:00～16:00

場所：名古屋市公会堂

主催：国土交通省中部運輸局、中部地方整備局

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kisya014/kikaku20141112.pdf>

5. その他

●EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！

2013年7月16日から募集を開始し、38団体が参加しています。

会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。

http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html

●EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

<https://twitter.com/officeEST>

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

●「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp/>

●エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

●交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

●記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当：熊井)

発行：環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blain.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo
EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>